

令和3年度きのくにコミュニティスクール推進ミニフォーラム

1. 日 時 令和3年7月3日(土) 13:20～(12:50受付開始)
2. 場 所 有田市民会館 紀文ホール
3. 参加者 学校図書館ボランティア、読み聞かせボランティア、教職員、学校運営協議会委員、教育委員会職員、共育コミュニティ関係者、公民館職員、家庭教育支援員、PTA関係者
合計128名

4. テーマ等

テーマ「できるときに！できることを！できるだけ！」
～読書を切り口にしたコミュニティ・スクールの可能性～

(1) ねらい

「ふるさとの未来を託せる子供を育てる」というゴールに向かって、それぞれの立場から“今”何ができるのか、学校・家庭・地域が連携・協働できる“しかけ・きっかけ・声かけ”について、関係者が一堂に会し学びあう。

(2) 成 果

コミュニティ・スクールの推進に向け、読書活動に目を向けることで、より多様な立場の方が参加された。オープニング、基調講演、講演、ミニパネルディスカッションにおいては、絵本の朗読と生演奏、制度面からのアプローチ、絵本のまちづくりの実践、関係者の実践をもとにしたコミュニティ・スクール推進への想いを通して、いろいろな角度から参加者の理解を促すことができた。

(3) 課 題

読書活動という視点を1つ持つことで、学校運営協議会の熟議テーマとなり得ることができる。既存の学校図書館ボランティア、読み聞かせボランティアや、他の地域学校協働活動の関係者が学校運営協議会といかにつながることができるかが、一体的推進に向けてのポイントとなる。

5. 内 容

(1)

◆オープニング

「絵本の朗読とやさしい音色」

メリーチューン

ア 朗読

「またもりへ」 作・絵 マリー・ホール・エッツ
訳 まさき るりこ

使用楽器 ハンマーダルシマー
森の中で動物たちと遊ぶ少年のお話。

イ 朗読

「ほうまんいけのかっぱ」 作・絵 椋 鳩十
絵 赤羽 未吉

使用楽器 トーンチャイム
「ちからもちで さかなとりの名人じゃ」とおおいばりのとらまつは さかなをとったかっぱたちをやっつけようとしています。
すると・・・かっぱたちの不思議な世界に引き込まれます。

ウ 演奏

「アンダスヴィーサ」 スウェーデン

エ 演奏

「世界の約束」(「ハウルの動く城」より)





(2)

◆基調講演

「県民の読書文化を創る『きのくにコミュニティスクール』」
和歌山県社会教育委員会議 議長
きのくにコミュニティスクール推進協議会 会長 藤田 直子 氏

○コミュニティ・スクールの意義

文部省（現在の文部科学省）「家庭や地域社会の連携が必要である」



開かれた学校へ → 開かれた学校から、地域と共に創る学校へ

県内の学校ではきのくに共育コミュニティの中で既に様々な連携（支援と協働）が機能している

コミュニティ・スクールの制度化へ

子供たちには生き抜く力を、学校には地域からの信頼を、地域には社会的な教育基盤の構築を、子供たちを守り支える学校と地域の「パートナーとしての連携・協働関係」の実現

「自立と共生」に向けた
鳥取県南部町立南部中学校
コミュニティ・スクールの軌跡

南部町「地域協働学校（コミュニティ・スクール）」の考え方

- ①地域とともに歩む学校教育
- ②「期待される」学校
- ③「地方創生」に果たす教育の役割と同一基軸



ポイント
小学校・中学校でGD（グランド・デザイン）の枠を揃える

○その効果的な推進とは

- 1 課題を共有する…子供をどう育てるかを共有する学校運営協議会（課題と方向性の共有）
- 2 部会を組織する…学校運営協議会の組織づくり（学校にある部会を活用した実働部隊の設定）

○「県民の読書文化の醸成」をコミュニティ・スクールで実現する

課題の共有：子供たちの読書文化を創る

事例

「紙風船」 秋田県仙北市西本町上桧木内の取組

大人も子供も一緒になっての紙風船作り

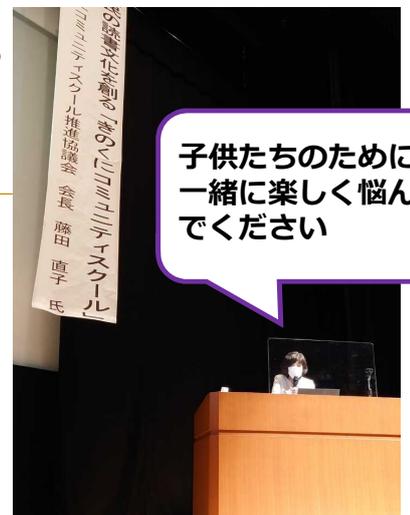
○小さな村8か所で2か月以上作業は続く

○「祭り（集い）」は「地域社会の「維持装置」

- ・地域住民の顔の見える関係
- ・紙風船を作る過程において、無理やりにでも人間関係を作る
- ・子供と大人との関係も同じ
- ・昔の冠婚葬祭の隣組も同じ

○子供たちの育ちにとって、多様な人間関係は重要

- ・子供たちの育ちにとって学校で習う意図的なカリキュラム（顕在的）
- ・学校文化、児童生徒同士等の多様な人間関係の無意図的なカリキュラム（潜在的）



子供たちのために一緒に楽しく悩んでください

事例

「みんなでごんぎつねプロジェクト」 愛知県半田市

地域の中で、子供も元気、大人も元気になる**顔の見える関係、対話の生まれる関係**

- 多様な人間関係が子供たちの育ちに与える影響が少なくなっている
- 地域のつながりが希薄になり、子供たちにとっての潜在的カリキュラムとなるべき力を低下させている
 - ・子供たちの精神的成長を促す取組を意図的に行う必要がある
 - ・地域に専門的知識を持ち、活力ある高齢の方々がたくさんいる

ドッキング

潜在的にふれあいの場を設定

- 地域学校協働活動
 - ・子供たちの成長の場
 - ・地域のコミュニティ

子供を育てる、地域を活性化する、先生を支える
(コミュニティ・スクールはこの連携を機能させる仕組み)

- 図書館ボランティア
 - 学校図書のデータベース化 (図書環境整備)
 - 放課後ライブラリーの開設
- 読み聞かせボランティア・お話ボランティア
 - 幼小で「読み聞かせ」「かたり」
- ↓
- 学校からのアプローチ
 - 「読破手帳」によるおすすめ本の紹介
 - データベースから表れた子供のデータ

**コミュニティ・スクールは、協働で、
人格を育て上げる場です**

課題と問題意識を共有しながら、一緒に取り組むことの充実感を味わい、つながりの中で、楽しく悩み、子どもの豊かな育ちを実現しましょう

(3)

◆ 講演

「子どもと絵本をつなぐまちづくり～25年のあゆみ～」

和歌山県社会教育委員会 委員

有田川町地域交流センターALEC センター長 杉本 和子 氏

- おはなしグループつくしんぼ

子供のことを思ってくれる大人がここにはたくさんいる

○ 出合いが繋がげた

- ・有田南ロータリークラブと共にブックスタート事業をスタート
- ・ブックカフェ
- ・移動図書館の整備
- ・絵本マルシェ
- ・小さな駅美術館
- ・絵本作家イベント など
- ・子ども司書
- ・分類キャラクターの誕生
- ・まちかど絵本箱
- ・休校中の学校を活用したお化け屋敷
- ・学校図書館支援センター



どうしたら夢はかなうのか

A L E Cには子供に本を届けたいと思うスタッフがいる
有田川にはたくさんのおよみきかせボランティアがいる

○有田川町絵本まちづくりグランドデザイン

「住んでいることを誇れる 笑顔あふれる絵本のまちの実現」

- ・絵本で有田川町を発信
- ・絵本で育むひととまち
- ・絵本で交流促進
- ・絵本でコミュニティ形成



できることを
できるときに
少しだけ

(4)

◆ミニパネルディスカッション

「きのくにコミュニティスクールの発展・充実に向けて」

コーディネーター

藤田 直子 氏

パネリスト

伊藤 松枝 氏

高城 正光 氏

土田 淳子 氏

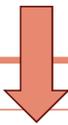


活性化させる
ために



伊藤 氏

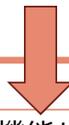
- ・子供とお母さんの幸せを (ブックスタート事業)
- ・メンバーがお母さんからおばあちゃんに
- ・デジタルと紙の本の違い
- ・生き抜く力を読書から
- ・委員さんから雑談が出てきた (AIにはない雑談力)
- ・無理なく続ける



- 組織で動いている
- 雑談から本音が出る
- めざすものを共有すること

高城 氏

- ・関わる人が全て幸せになる学校
- ・学校運営協議会委員というこだわりを外す
- ・ワンチーム 一緒に汗をかいて
- ・先生と自治会、民生児童委員等、子供に関わる全ての人で会合を持つ
- ・適応力を上げる
- ・子供のために必要な「親子読書」



- 運営協議会が機能しているから発展していく
- 学校・委員が共にぶれのない目標を持つ
- 地域も行政も巻き込む会合の重要性

土田 氏

- ・子供に関わる全ての人と一緒に活動、話のベクトルを合わせる
- ・みんな知り合いプロジェクト (すみっしープロジェクト)
- ・支援部会で話しやすい関係
- ・ざっくりばらんな話から出てくるひらめき、雑談力
- ・地域や学校、先生方等つながりの持ち方



- 成果物を作るのではなく作ることでつながることが目的
- 当事者意識を持ちながら委員として会合へ

活性化させるためにそれぞれの地域で地域に合ったもので行動に移す